

令和元年度 第1回 会員・家族研修会



令和元年度 第1回 会員家族研修会が8月4日(日)の15時から17時に、滋賀県立男女共同参画センターの研修室B・Cで開催されました。松本会長挨拶の後、北見副会長が体験発表をおこ

なった。「夫のDVがひどくて大阪の母子施設を頼ったけれどその時にはすでにアルコール依存症になっていた。小杉先生に出会い『よく来られましたね。つらかったね、一緒に治していきましょう』と言われて断酒の道を歩き始めた」と体験談を話され、講演に移った。



講師は安東医院でソーシャルワーカーをされている松浦千恵さんをお願いして「関係障害、生きづらさの病といわれる依存症から私たちは何を学ぶのか」という演題で下記の主旨のことを話していただきました。

- ・ 依存症の中心には「苦痛」がある。苦痛は文化・幼少期の逆境体験・生活上のストレスなどを抱えて生活するなかで生まれ、これを癒すためにお酒に頼ってしまったのがアルコール依存症です。
- ・ 本音で話せる信頼できる人や仲間がいれば、お酒に頼るようになることは少ない。
- ・ 回復のためには、信頼できる医療者に出会うこと、本音で話せる仲間の中に入ることです。
- ・ 依存症のない社会は孤立のない社会。「人は誰でも時に誰かに助けられ、誰かを助ける」こんなことが普通に出来ている社会は依存症に苦しむ人が少ないと思います。

参加者は同友会会員・家族41名、他に安東医院に来られている実習生1名でした。